

リスタートしたいあなたへ

音羽中学校一年 向 すす

失敗しない人なんて、いるのでしょうか。
いいえ、誰もが一度は失敗を経験しているでしょう。私も何度も失敗を経験しました。ですが、自分の失敗の中で気付けなかったことに、他人の失敗を見て気付くことができました。今からするお話は、私が友達の失敗から気付いたこと、感じたことから考えたことについてのお話です。

私が通っていた小学校の先生の中には、「ハ名札チエツク」と題して、名札をつけていない人や忘れた人の人数をクラス毎に数える先生がられました。名札を忘れた人がいない状態を維持できれば、そのクラスの記録が更新されるゲームのようなものでした。私たちのクラスでは、名札を忘れる人がだんだん減り、記録は伸びていました。ある時、一人のクラスメートが名札を忘れてしまいました。クラスの記録はくずれ、みんなは何とも言え

ない表情をしていました。名札を忘れたクラスメートは、泣きながら、何度も「ごめん」と言いました。その子にとって、この出来事は大きな後悔になってしまったと思います。でも、その後その子は一切、忘れ物をしなくなりしました。ある日、私バクラスメートの予定表を配っているとその子の予定表が目に入りました。その子の予定表には、「絶対に忘れ物をしない。三回見直す！」と太字で書かれています。私はとても感動しました。名札を忘れてしまったことはもう取り消せないけれど、次は絶対に同じ過ちを繰り返さないようにしようという思いが強くなり伝わってきたからです。「やり直したい」「あの時何でそうしなかったのだろう」。そう思い後悔することは誰にでもあると思います。でも、その失敗の後で、自分がどう考え、どう動くかどうかが一番重要だと、その子の失敗で気付きました。

それと同時に、犯罪や非行と忘れ物は、少し似ているなと考えました。犯罪を犯してしまった人や、非行に走ってしまった人は、忘れ物をしてしまった人と同じように、やり直せると思うんです。犯罪を犯した事実も、非行に走った経歴も一生取り消すことはできないけれど、その人たちがその後どう考え、どう動くかで、新たに人生をやり直すことができると思います。そういう面で、犯罪や非行は忘れ物と似ていると感じました。でも、全く似ていない面もあります。それは、忘れ物は自分が困るだけですが、犯罪や非行は自分よりも他人に被害がおよぶところです。忘れ物は許せる失敗でも、犯罪は許されないのです。だから、まずは、犯罪や非行を防いでいかなければいけないと思います。

そのためには、どうすればよいでしょうか。私たちには直接、犯罪や非行を防げるような大きな力はありません。私たちにできることはとても小さなことです。ですが、「ちりも積も

れば山となる」と言うように、例えば、学校の生徒一人一人が他人の気持ちを考えて行動するだけで、学校内で起こりうるいじめなどの犯罪を防げると思うんです。社会でも、人の気持ちを考えずに行動する人がいるから犯罪や非行が起こってしまうんだと私は思います。だから、一人一人が他人の気持ちを考えた行動をできるように、学校でトイレのスリッパをそろえる運動を広げればよいと考えます。次に使う人のことを考えて、トイレのスリッパをそろえることは、まさに他人の気持ちを考えることにつながります。そんな小さなことしかできませんが、これも「社会を明るくする運動」の一種だと思います。

犯罪を犯してしまった人や、非行に走ってしまった人がもう一度帰ってこられる、リストアートできる社会も、私が描く「明るい社会」です。犯罪を犯した人や非行に走った人は、もちろん悪い人です。でも、その人たちが反省して、立ち直ろうとして、悪い人から良い

人に更生しようとすることを許せる社会がい
いです。家に帰った時に、「おかえり」と言
われると、なんだか安心しませんか。地域で
も、そんな風に「おはよう」や「おかえり」
の声が増えたら、誰もが安心して帰れる街に
なると思います。だから、私たちがあいさつ
をすることでも明るい社会に一步近づくことが
できると考えます。

犯罪を犯してしまったり非行に走ってしま
った事実が消えないけれど、その人たちがも
う一度やり直すことを許し、応援できる人で
いっぱい社会を目指したいです。そのため
に、私にできることはすごく小さなことです
が、そんな小さいことをあたり前にできる人
が増えたら、この社会は変わると信じていま
す。